

## インターバンクの声（2015年11月19日）

12月の米連邦公開市場委員会（FOMC）での利上げの可能性がどれだけ高くなるのかを見出したかった人たちと、逆に可能性の低下を求めていた人たち双方にとって、何とも10月のFOMC議事要旨の内容には消化不良となったに違いない。とにかく最近の米連邦準備理事会（FRB）のFOMC声明文にしる議長、理事、地区連銀総裁による発言にしても、細かな米国経済の現状説明といった具体的な表現ではなく、「利上げの条件が整うはず」とか「利上げの期待感を高めてしまうことに懸念がある」など情緒的な内容ばかりで、まるで国語の解釈を求めているようだ。それでも、国語の解釈で言えば、市場は10月の議事要旨について、大方12月に利上げを開始しても米経済には乗り切るだけの力があると受け止めたようで、債券利回りが利上げを織り込み、僅かに上昇しても、ニューヨーク・ダウやナスダックは結構買われて取引を終えている。次は、欧州中央銀行（ECB）の前回理事会の議事要旨を確認する番だが、なかなかユーロの下値を追うような動きが見えて来ないのが不気味だ。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。